

公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

2019年

ホームページへGo!→
スマホで教室だよりが見られます



教室だより3月号

やってよかった!

今月は年度の最後ですので、最終教材修了生に聞いた「やってよかった!」をご紹介しますと思います。

☆自分で計画を立て、毎日自分のペースでコツコツと学習する習慣が役立った。

☆ひとつのことを長く続けることができ、自分でもがんばりきったと思うし、みんなもそう言ってくれる。長く続ければ必ず成果が出せると確信が持てたし、ものすごい自信につながった。

☆大人になると、やらなければいけないが、やり方さえもわからない事柄や問題が山ほどある。その時に必要なのは『他人を頼るのではなく、自分が主体となって解決していこう』という姿勢とそれを支える自信です。社会に出てからこそ、公文式で身につけた「自習力」「継続力」が求められると思います。

☆国語教材を学習することで、いろいろなジャンルの文章を読むことができ、自分の見聞が大きく広がった。一見関係ないように見えて、実は物事は深くつながっていることに気がついた。賢くなれたと思う。

☆数学のL教材・MM教材を乗り越えた時、「力がついた」と実感しました。あきらめず続けてよかった。

☆『自分の知らない事柄や未知の問題に出合った時、それに取り組むために必要な学習姿勢や学習の仕方について、自分は公文式学習を通して学んできたのだな』と大人になった今、思っています。

今、学習中のみなさんも最終教材を目指して、ぜひ学習を継続してくださいね。

公文式の創始者・公文 公(くもん とおる) 先生の言葉より

“「自分でできる」から、学習習慣が身につく”

「自習」こそが勉強の基本です。公文式のいう「自習」とは、自ら進んで勉強し、自力で問題を解くばかりでなく、その答えが正しいかどうかをチェックして誤りがあれば自分で訂正できることまでを含めたものです。

よく、保護者の方が「この子は言われないと勉強しない」とこぼすように、人に言われて仕方なくするような受け身の勉強を続けていると、いつまでたっても学習習慣は身につかないでしょう。

では、自習ができるようになるためにはどうすればいいのでしょうか。最初のステップは「自分で楽にできる」という経験をもたせることです。そして、公文式で学年相当に関係なく「自力でできる」ところを学習することによって、「やればできる」という喜びを味わった子どもは、勉強に対して自信をもち、自ら学ぶ姿勢が出てきます。

「やりたくない」のは難しくてつらいからであって、楽にできて楽しければ、「次にはどんな新しいことがあるだろう、早く知りたい」と思うものです。そして、このような知的好奇心はどの子にも備わっているものなのです。

2019年 3月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21 春分の日	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

本市場教室日□

横割教室日△

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

3月分の会費引き落としは2月28日(木)です。よろしくお願いたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願います。

*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

*ゆき子の一言コラム

夢の実現のためにも

「子どもにはそれぞれに可能性があると思っています」だからこそ子どものやる気を引き出し、その気持ちを学ぶ楽しさに変えて、限界を決めずに伸びるだけ伸ばしてあげたい。そして公文で積み重ねた努力、身につけた力が、いつかやりたいことを見つけたときの後押しになるようにと願っています。「学校の先生になりたい」「獣医さんになりたい」「アイドルになりたい」…子どもたちの夢はさまざま。自分の進むべき道を見つけ、しっかりと歩いていける力を培えるようにと、先生は一人ひとりを温かく見守っています。

公文式学習法

1. 努力に努力を重ねて

苦手な算数を克服したいと小5で2A教材のたし算から公文を始めたSくん。Y先生は目標を決めることでやる気を高めようと「中学に入るまでにG教材（中1相当）を勉強しているようになろう」と提案した。

物静かで口数も少ないSくんだが「がんばります」と力強い返答。その言葉通り、一日30枚のプリントを学習する。訂正が多く、なかなか先に進めない時もあったが「ここは難しいところだから」「あなただけができないんじゃないよ」と先生は声をかけ続けた。くじけそうなきには「あなたが一番がんばっているね」と励ましながら。

根気よく学習をくり返し、一年後の小6・2月には目標を達成。G教材に入った。小6からは英語もスタート。算数で身につけた自学自習の姿勢と英語への興味でどんどん教材は進み、中学では英語が得意科目になる。

数学も着実に力を伸ばし、学校での成績は上位に。部活動の卓球でも活躍し県大会に出場した。

「自分のやりたいことに積極的に取り組み、イキイキしています。学校でのことなど、いろんな話をしてくれるようになって」とお母さんも驚く程の変化だった。将来は英語の先生になりたいと、現在は大学の英米科に進学し、目標に向かってがんばっています。

「壁にぶつかることもあるけれど、乗り越えた時の喜びはとても大きい」と後輩たちへのメッセージを残してくれたSくんなら、自分で見つけた道を切り拓いていってくれるだろう。努力を重ねるSくんの姿は、先入観で子どもの限界を決めてはいけないと教えてくれました。

2. 悔しさをバネに

1歳10か月で学習を始めたHちゃんは負けず嫌いな女の子。

幼児の頃は、難しいと思ったり、間違えたりすると「もうやらない!」と悔しさを爆発させ、「じゃあ、もうやめてもいいから」とうと、「いやだ、やる」と泣きながら最後までやり通していた。小1の時、算数H教材の連立方程式でつまづき、プリントをくしゃくしゃに丸めてポイと投げてしまう。解けない苦しさやもどかしさが抑えきれなかったのかもしれない。しかし「ここまでがんばって解いたのにどうして? それにプリントは大事にしなきゃだめ。

そんなことするのなら帰らなさい」としかると本当に帰ってしまった。家に連絡して事情を話し「うまくいかないときもあるけれど、みんな自分で乗り越えています。Hちゃんも心配ないと思います」と伝えると、お母さんも「そのうち落ちついて学習できるようになるでしょう」と。いつも学校帰りにスイミング教室に通い、それから公文の学習もしっかりやる根性のあるHちゃん。きっと悔しさをバネにがんばってくれると信じていると、次の教室日にはいつも通りやってきて、くしゃくしゃのプリントを広げて学習を始めた。それからは、泣くことも途中で帰ることもない。おとうさんには「公文は絶対にやめないからね」と話しているという。それは、Hちゃんが自分の力でできた時の喜びや達成感を知っているからだだろう。困難と向き合い、のり越えることも大切な経験。つらいときにもあきらめずにがんばれるよう、子どもの気持ちにより添い、状況に応じて対応するのも指導者の役目です。

教室での決まりごと。

①はきものはきちんとそろえよう!

②あいさつは おおきなこえで はっきりしよう!

③もちものには なまえ をかきましょう!

④でんわをかりたら かならず でんわ代10円 いれてください!